



育成会だより

「私の職場体験」



第51号

令和7年2月20日

豊城中学校区
青少年健全育成会
(事務局)
豊橋市立豊城中学校
豊橋市今橋町2-1
電話 54-1275
FAX 57-1964

「ありがとう」「助かるよ」…ある調査結果によると、子どもが言われてうれしい言葉だそうです。
昨今、失敗を嫌うためか、自ら行動を起こすことを躊躇する生徒が多いようにも感じます。生徒が安心してやってみようとする環境が整っていないのではないかと、とも考えてしまいます。
人は「するな」など否定語シャワーを浴びせられると、『やる気パワー』が減退していきいます。そこで、人が成長する過程において、成功や失敗などの実体験は習得するだけの知識より優位に働くことを生徒に伝えていきます。一方で私たち教師は、生徒に対して「転



あたりまえであることだ「ありがとう」

豊城中学校 校長 河合 成 始

ばぬ先の杖」を与え過ぎず、諸問題が発生したときには、自らを客観視し自分で決められるように導いています。
子どもは自分を肯定してくれる環境の中で、自己決定を繰り返すことで自律へと歩み始めます。無論その成長速度は十人十色ですので、個に寄り添い支え続けていく必要があります。
将来を担う子どもたちには「失敗は成功の種」と捉え、多様な場面面で自ら動き出してほしいと願っています。もし失敗したときには、周りから「ナイストライ!」の温かな言葉が聞こえてくる光景があたりまえになれば、最幸に思います。



合唱コンクール

会長 小山 勝 信

梅の花の爽やかな香りに、春の訪れを感じた季節となりました。皆様方には、日頃より青少年健全育成活動にご尽力いただいております。深く感謝申し上げます。
学校評議員を務めていることもあり、ときどき豊城中学校を訪問し、行事や授業の様子を観察させていただいています。
10月18日、豊橋市公会堂で行われた合唱コンクールを参観しました。残念ながら、皆様に各クラスの合唱を聞いていただくことはできませんが、その時の挨拶や講評などから、すばらしい合唱コンクールだったことが伝わると思い紹介します。生徒実行委員長の挨拶、「これまでの全てのストーリーをこの場で見せてください。そして皆さ

んの青春のページを彩る素敵な合唱コンクールを作り上げていきました。音楽指導員の先生の講評、「音楽というのは心を映す鏡です。素敵な合唱をする学級は、良い取り組みができ、同時に全体が成長している証です。皆さんの歌声を聴いて、自然と笑顔になりました」。校長先生のお話、「1年生の歌声で笑顔になり、2年生で心を揺さぶられ、3年生で涙が出そうになりました。笑顔の先には涙がありました。よくここまで仕上げてきたと感心しました。ありがとう」。
こうして生徒達が伸び伸びと活動しているのも、学校、家庭、地域の多くの皆様の支えがあればこそと思います。今後ともよろしく願います。

地域のかたや子どもたち同士 がつながった教育活動

松葉小

地域のかたとのつながり で深まった防災学習

四年生は、総合的な学習の時間に「守るいのち・広める防災」をテーマに、防災について学習しています。今年度は新たな取り組みとして、特殊なアプリが入ったタブレット端末を借りて、ハザードマップ作りに挑戦しました。

二学期の活動では、班ごとに校区を分担して、タブレット端末で道路や建物などの写真を撮影しました。このアプリでは、位置情報が記録されるので、危険個所が、地図上に記録されます。こうして作られた、ハザード



《校区防災訓練に展示したハザードマップ》



《小山自治会長の話を聞く様子》

ドマップを十一月に行われた校区防災訓練で会場に展示していただき、学んだことを発信することができました。さらに、避難所開設や、災害時に自分たちにできることを考え、実践したことや提言をまとめました。学年で発表し合う会には、校区自治会長の小山様と校区防災委員長の渡辺様にお越しいただき、内容について評価していただきました。学習を通して校区のかたとつながり、学びを深めました。

子どもたちのつながりで展開する生徒指導

四月、子どもたちに紹介した五・六年生の下駄箱の使い方。次使うときのことを考え、きれいに靴がそろえてありました。それを聞いて、全校児童が動き出しました。自ら靴をそろえる姿、自分の靴だけではなく学級の仲間の靴もそろえる姿が見られるようになりました。また、企画運営委員が企画した「時計を見よ！松葉つ子週間」。時間に間に合うように休み時間を計画的に過ごす姿、学級の仲間に声をかける姿が見られました。来年度のさらなる成長を期待しています。



《6年生の下駄箱の様子》

ボランティアさんに 支えられました

松葉小学校は、令和七年度よりコミュニティ・スクールになります。今年度は準備期間として、保護者をはじめ校区の皆様にもコミュニティ・スクールを知っていただくことを中心に情報提供をしてきました。

すでに「おはなし会」「図書館」「ガーデニング」の各ボランティア団体積極的に活動してくださっています。

「おはなし会」では、金曜日の朝を中心に絵本の読み聞かせやブックトークを行ってくださいます。子どもたちは毎回楽しみにしており、活動の様子をのぞいてみると、どの子もおはなしの世界に引き込まれて真剣なまなざしでボランティアさんを見つめています。

「図書館ボランティア」は図書館司書や司書教諭と連携しながら、図書館の環境整備

を行ってくださいます。活動の様子を子どもたちが目にすることは少ないですが、子どもたちは、実によい環境で本を借りたり読書をしたりすることができています。

「ガーデニングボランティア」は、主に栽培委員会の活動に合わせて子どもたちと一緒に活動していただきます。教師だけではなかなか手がまわらないところも時には汗だくになりながらお手伝いいただいています。一緒に作業をしていただくことで子どもたちの学びにもなっています。今後、コミュニティ・スクールになることで、さらに校区地域とのつながりの輪が広がることを期待しています。



《おはなし会の様子》

地域と共にある学校 コミュニティ・スクール

八町小

八町サポーターのみなさんに支えられて

昨年度から八町小は「コミュニティ・スクール」となりました。コミュニティ・スクールとは、「地域と共にある学校」のことです。簡単に言うと「地域の人は、みんな先生」という合い言葉のもと、子どもたちが、より多様な人々から学んだり、交流したりするなど、子どもたちの生きる力やコミュニケーション力の向上をねらいとしたものです。

二年目を迎えた今年度は、子どもたちの安心・安全、学習意欲の向上を旨とした活動を推進するとともに「八町サポーター」（ボランティア）の増員を図ったところ、サポーターは百二十名を超えました。多くのサポーターのみなさんに支えられた、今年度の活動を紹介いたします。

八町 サマーチャレンジ

夏休みの学習会です。自身を取り組みたい学習、夏休みの宿題などを学校に持ってきて、自分のペースで取り組みます。学習を教えてくれたり、サポートしてくれたりするのは、学校の先生ではなく、地域の大人や中高生、大生です。



サポーターに教えてもらっています



学生サポーターも読み聞かせをしました

昨年度に続いて二回目の開催でしたが、今年度は読書感想文の書き方を支援したり、本の読み聞かせも入れたりしたことで、参加人数が三倍以上になりました。また、中高生や大学生が教えてくれるということもあって、参加した子どもたちからは「わかりやすく教えてくれるし、親しみやすかった」という声が聞かれました。

この八町サマーチャレンジで地域の方や学生のサポーターにお世話になった子どもたちが、数年後にサポーターとなって地域に貢献してくれることを願ってやみません。

農業体験 野菜づくり

二年生、三年生、仲よし学級は、八町サポーターである農家の方の畑を使わせていただき、里芋、さつまいも、大根、その他の野菜などを育て、収穫までの体験をさせてもらっています。そして、体験のときには、たくさんさんの保護者の方がサポーターとしてお手伝いに来てくれます。

実際の畑では、ぬかるんだ土に足を取られることもあり、着ていた服や手足を泥だらけにしながら、農作業をする経験はたいへん貴重です。



こんなに大きいのがとれたよ！

また、この農家の方には、生活科の野菜作りにも関わっていただいています。野菜作りのプロから育て方を学んだ子どもたちは、朝の水やりはもちろんのこと、休み時間に「芽かき」をするぐらい、野菜作りに夢中になっていました。



苗の植え方を
教えてもらいました

**八町サポーター
随時募集しています！
登録をお願いします！**

八町サポーターは、できることを、できるときに協力してくださるだけで、ありがたいです。校区の皆さんにぜひ登録していただきたいです。左のQRコードから簡単にできます。よろしくお願ひします。



地域や人と関わり 豊かに学ぶ豊城中

鬼祭の飴袋詰め

二年生は「豊橋鬼祭」について学びました。

十一月には、安久美神戸神明社より平石様を講師にお招きし、鬼祭講座を行いました。中学生が地域にかかわっていく、地域について考えていける視点を示唆していただきました。このことが一つのきっかけとなって、鬼祭について関心をもったり、主体的に関わったりできる大人になってほしいと思います。また、一月には飴の袋詰め作業のボランティア活動に関わらせていただきました。この地域に住む子どもたちにとっては、なじみのある作業ですが、このような作業を経て祭りが盛大に行われていることを初めて知る機会になった子もいました。

地域の方の努力によって、伝統文化が継承されていることを、これらの学習を通して改めて知ることができました。講師・関係の皆様、ありがとうございました。



吉田文楽体験

十一月に吉田文楽保存会の方々に講師にお招きし、人形浄瑠璃体験を行いました。最初に、講師の三味線に合わせて、浄瑠璃体験を行いました。生徒たちは、独特な節回しに苦労すると同時に、恥ずかしさもあり、はじめはなかなか声が出ませんでした。しかし、徐々に緊張感も解け、最後はセリフの内容に合わせて、感情を込めながら語ることができました。

続いて、三人一組になり、人形操作体験を行い、体験の中では、ラジオ体操の音楽に合わせて人形を動かすことに挑戦しました。三人の息を合わせて一つの人形を操ることが難しく、手や足、頭がバラバラに動いてしまう人形を見て、見学の生徒からは笑顔が見られていました。

体験を終えた生徒からは、吉田文楽の存在を強く認識したのと同時に、この地域に根付いてきた伝統文化を大切にしていきたい、との感想がありました。



祇園祭ボランティア

今年度も待望の祇園祭が盛大に行われました。打ち上げ花火当日のゴミ袋配付ボランティアには学年の約半分の生徒が参加しました。奉賛会の方からいただいたエメラルドブルーの豊城中ボランティアTシャツを着た生徒たちは、精いっぱい、来場客にゴミの持ち帰りを呼びかけました。



伊賀さんへ感謝

人形浄瑠璃部に長年関わっていただいた伊賀太吉さんが、八月にお亡くなりになりました。芸能フェスティバルなどの公演の際には、温かく生徒たちをご指導いただきました。急な知らせに、教員、部員一同驚きと悲しみに包まれました。部員たちは「今までの感謝の気持ちを伝えたい」と伊賀さんへの思いをつづり、ご家族に届けることができました。

一昨年度は、本校の活動が認められ、県の奨励賞をいただきました。豊城の特色の一つである人形浄瑠璃部の活動は、保存会の皆様の支えがあったり成り立っています。伊賀さんの熱い思いは、今後も部活動やプロジェクト継の活動によって受け継いでいきます。



いのちの講話

今年は、豊橋市青少年センター副センター長の朝倉三恵氏から「小さな命のメッセージ」のテーマでお話を聞くことができました。朝倉氏の長男将さんは、小児がんを発症し、長い闘病生活ののち七歳でなくなりました。講話では、闘病生活の中でも家族だけでなく、誰に対しても優しい気遣いができる将さんの姿が語

られました。さまざまなエピソードを通して、家族と一緒に過ごすことや学校に登校できることがいかにあたりまえでなく、貴重であるかを知ることができました。自分に与えられたいのち(時間)を大切にしていきたいと改めて考えさせられました。



中学生の地域との繋がりについて

副会長 吉見正樹

新しい年を迎え、皆様方も新たな気持ちで前進しておられると思います。昨年は新年早々の能登半島大地震で幕を開け、世の中は不安定な一年でした。これからも災害をはじめ予測不可能といわれる社会が続いていくものと思われ、そのような状況にあって、中学生をはじめ若者たちは社会に必要な社会性やコミュニケーション能力を身につけることが求められています。こうした背景から中学生が多様な世代や立場の方々に関わるための必要性は高まっているといえます。そのためには、地域の体育祭や避難訓練等の行事に積極的に参加し、

多様な世代の方々との交流を通して今までは見えていなかった地域の側面に気付くことが大切だと思います。昨年、八町小学校では「学校運営協議会」地域コーディネーターを中心として児童対象に夏休み「八町サマーチャレンジ」を開催しました。地元ボランティアとして、中学生や高校生・大学生の皆さんが参加し、勉強のお手伝いをしていたり、児童や保護者から感謝の言葉をもらいました。皆さんには社会に出た時の人との繋がりは非常に大切なことで、地域との新たなキズナが創生されることを期待しています。